

ほっとタイム 仙台七夕で実業学ぶ

若者が伝統行事に携わりながら、ビジネスを学ぶ機会をつくりたい。ホテル経営の松月産業(仙台市)の田所寛章常務(37)は、8月6〜8日の仙台七夕まつりで展示した大型飾りのデザインの考案を通じ、高校生に企画やマーケティングの知識を身に付けてもらうプロジェクトを常盤木学園高(仙



常盤木学園高の授業でマーケティングの基礎知識を伝える田所さん

常盤木学園高で経営者が授業

台市)で初めて実施した。

松月産業を「顧客」と捉えた場合、中心商店街に掲げる飾りにはどんなデザインが求められるか、生徒たちに検討するよう指示。プロジェクトが始まった4月には田所さんも教壇に立ち、商品・サービスのターゲットを明確にすることの大切さなどを教えた。

生徒44人が10チームに分かれて5月に提案したデザインを田所さんは「コンセプトや目的がしっかり表れていた」と評価する。うち5種類を採用し、まつり期間中にクリスマスロード商店街に飾った。

「若い時期にビジネスに触れれば将来の可能性が広がる。地元で愛着を持ち、盛り上げてほしい」と田所さん。地域の将来を担う高校生たちに大きな期待を寄せた。

(経済部・水内杜子)